



公明党
遠藤 隆 議員

コロナ禍における経済支援策について

問 コロナ禍において国民生活に目を向けると、通常は困窮するような状態でなくても、緊急事態宣言を受けて経済活動が広く停止・抑制され大幅に収入が減少し、大きく行き詰まってしまったフリーランス・非正規雇用者・小規模事務所等への今後の経済支援策は大丈夫か。

答 本市は事業者の皆様により独自の「がんばる事業者応援給付金」を実施。資金調達では、県が「経営安定資金〔新型コロナウイルス対策分〕」として、3年分の利子を全額補給をした。

非正規雇用者への支援については、国が

雇用調整助成金の特例措置として、雇用保険の被保険者でない労働者の休業に対しても支給対象とした。

本市としては、今後ハローワークと密接に連携する中で、正規雇用者としての就職につなげる側面支援に努めていく。



コロナ禍における経済支援策は



市政同志会
佐々木 一弥 議員

「笑顔があふれる めがねのまちさばえ」づくりについて

問 北陸新幹線の工事が1年半遅れるとの突然の報道があり鯖江のまちづくりへの影響が心配だが、佐々木市長が描く「笑顔があふれる めがねのまちさばえ」とはどのような鯖江なのか。

答 身の丈に合った財政運営、市民目線、生活者の視点に立った政策展開など、牧野前市長の評価すべき取組を継承しながら、持続可能な自治体経営を念頭に、経済、福祉、財政の3つをしっかりと回し、市民の皆様との協働による知恵と工夫で、鯖江のまちと人が元気になる鯖江を構築していく。

現在、工事の遅れによる市内の工事への影響はないが、今後発生する並行在来線会社のかかりまし経費については、県や沿線市町と連携し、地元負担としないよう国に強く求めている。

鯖江市の交通ビジョンに基づいた二次交通網の構築については、その時期を注視しながら検討を進めていく。



建設中の北陸新幹線(鯖江市区間)



市民創世会
大門 嘉和 議員

「新市長の政治姿勢を問う」

問 市長が感じる鯖江のよさ、強みとは。それをさらに生かすとは。

答市長 鯖江の最大の魅力であり強みは、人であり市民力であると感じている。その市民力を最大限に発揮していただくため、市民の皆さん自らが事業を企画立案、実行していく仕組みを作り、市民が活躍できる場を創出していく。

問 佐々木カラーをどのように出していくのか。

答市長 今現在、新年度の予算編成作業に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染

症の拡大が収まらないという中で、何よりも優先すべきことは、市民の生活を守るための感染症対策に万全を期することだと思っている。

さらに、ウィズコロナ、アフターコロナを意識しながら、すぐにやるべきもの、そして未来を見据えて時間をかけて取り組むべきものなど、メリハリをつける中で私のカラーを出していきたいと考えている。

その他の質問

〇つつじバスの再編について



鯖江市の未来は